

～文化的歴史的所産を巡る～

残したい情景

第23回 秋田県山本郡藤里町

一般財団法人 日本不動産研究所

7人であったが、19（令和元）年7月時点では3214人まで減少している。また、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると、40年（令和22年）には1796人になると推計されており、過疎化の進行が激しい。

あるがままの自然

この閉校した小学校の1つである旧「坊中」小学校を民間人が購入し、地元民と一体となつて、山里を体験する宿泊施設（白神ぶなっこ教室）として活用されている取り組みがある。トイレ等は改修されているが、教室、理科室、校長室といった風景は閉校した当時のままであり、時代に合わせた施設ではない。

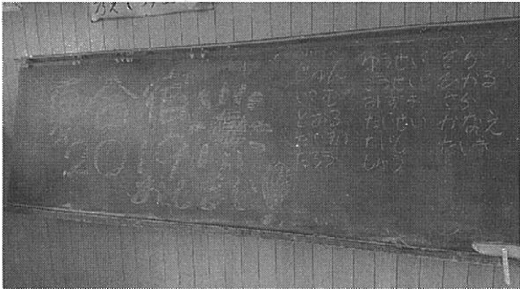
鉄道も国道もない町の宿泊体験

大自然の四季をあるがまま

世界自然遺産である白神山地の麓にある藤里町は、秋田県の内陸北部に位置し、行政区域の大半は山林が占め、自然豊かな町である一方、町内に鉄道はなく、国道もない。藤里町の人口は、75（昭和50）年の国勢調査では5083



旧校舎を活用した「白神ぶなっこ教室」

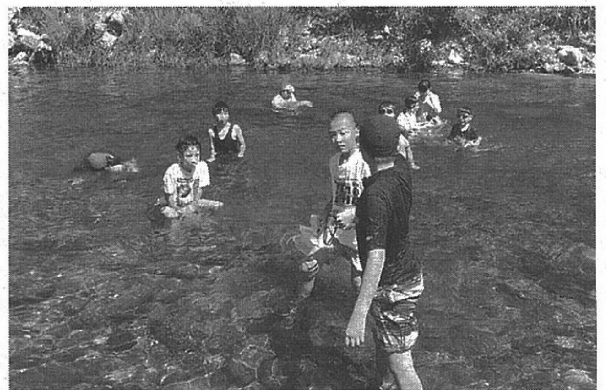


「夏合宿……」と書き残された落書き

が実る秋には農作業体験。辺り一面が真っ白となる冬には雪遊びやきりたんぽ作り。観光地化されていないので、四季彩りの季節を活かした、この町の文化、自然といった原風景を感じることができるところとなる施設である。

童心に帰る

実際に体験するため、子供達の夏休みにあわせて、友人と多くの子供達を連れて宿泊した。私を含め同行者は秋田市在住である。首都圏からみれば秋田市も田舎であるが、秋田市でもなかなか体験する



藤琴川で遊びを満喫する子供達

の星空の下、色々な生き物の心地よい鳴き声。大人は童心に帰り、子供達も体験したことのない大自然にずっと笑顔。

ただ、地元の方に「すぐそこだから」と言われて歩いた温泉は、私の思いとは全く異なる距離感であった。帰りがけに、次にみんなで行きたいところを聞いてみた。すると返ってきたのは、屋内型複合レジャー施設の「ラウンドワン」。

まあ、仕方がない。大人が知恵を絞って造った施設に勝つことは難しい。でも、子供達自ら知恵を絞って遊ぶしかない大自然には、無限の可能性を感じた。（秋田支所／不動産鑑定士・平野太郎）